

## 巻頭言

### VUCA時代の作業療法士教育～キャリアアダプタビリティの育成～

福岡国際医療福祉大学 丹羽 敦

「VUCA時代」という言葉を耳にする。VUCAとは1990年代後半に米国で唱えられた軍事用語であり、「Volatility・変動性」「Uncertainty・不確実性」「Complexity・複雑性」「Ambiguity・曖昧性」4つの略語である。頻発したテロ行為の破壊的行動に対する対応、戦略の立案が困難となったことを背景に“予測不能な状態”を表す言葉として生まれ、2010年以降は、ビジネスの世界にあてはめ頻用される言葉となっている。(川本2018, 阿部ほか2020, 斎藤ほか2022)

現在、情報技術の発達、経済のグローバル化、また少子高齢化社会による2025年度問題、さらに新型コロナウイルスの蔓延や水害、地震による災害など、社会情勢やビジネス環境の変化は激しく、まさに先の読めないVUCA時代である。その中で、私たち作業療法士も働き方やキャリアの築き方を考えなければならず、多くの選択と適応に迫られる機会に直面している人も多いのではないだろうか。

このようなVUCA時代の中、作業療法士教育はどうあるべきか。

専門的な技能は勿論のこと、膨大な情報からの正確かつ安全な情報を収集し、活用する能力(情報収集技術は、学生の方が高い能力を有しているかもしれない)、また、あらゆる状況に対応できる柔軟な思考力や創造性、そしてスピーディーな決断力、行動力、さらには他者と協調できる対人スキルといった実践に繋がる能動的な学びを促すような教育が必要であると考え。

既に多くの養成校で行われているとは思いますが、情報収集、情報活用に関する講義・演習、また学内でのケーススタディによるグループワークおよび学外での臨床実習を通して、問題解決能力や協調できるコミュニケーション能力など実践的なスキルを身につけることが必要であり、学生自ら学び考えることで課題を設定し、解決策を見出し行動する力を育むような教育手法を積極的に取り入れることが望まれる。さらに、学生は様々な背景を持っており、学修過程において思わぬ不安を抱えていることがある。このような学生の心的状態に対するメンタルヘルスへの支援も併せて行っていく必要がある。

一方、VUCA時代の中、作業療法士の職域は、医療・福祉施設だけでなく、行政機関、特別支援学校・学級、養成校、そしてわずかであるが刑務所や福祉用具展示場、またコンサルタントとして企業の健康経営に携わるなど、作業療法士の働き方も様々であり、選択と適応に迫られるという状況でもあるが、これは多くの働き方が選択できるチャンスであるともいえる。

「2025年問題」を直前に、地域共創が望まれている現在、作業療法士として環境や時代の変化に合わせてキャリアを適応させる能力、すなわち“キャリアアダプタビリティ(1950年頃ドナルド・E・スーパー(米)が提唱し、マーク・L・サビカス(米)により体系化され確立)”の育成が必然であり、作業療法士が地域共生社会の中で多様な職域で活躍し、その成果が社会に認知されることを期待したい。そして、社会のニーズに応えるためには、AIとの共存社会が求められる中、人間にしかできない「考える力」に焦点を当て、自力で思考する能力を高める作業療法教育が望まれる。

今回、変化の激しい時代における教育手法については卒前教育の立場から述べたが、VUCA時代における作業療法士のキャリアアダプタビリティ育成は、卒前から卒後教育を通しての課題であることを申し添えておきたい。